

Monthly Report

2016年10月号

特集

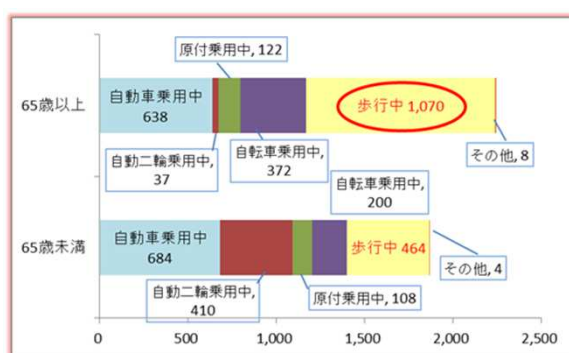
「高齢歩行者との事故防止」

平成27年の交通事故による死者（4,117人）を当事者種別構成で見ると、もっとも多いのは「歩行中（1,534人）」、次いで「自動車乗車中（1,322人）」となり、この2つで死者の約7割を占めています。

歩行中の死者（1,534人）の年齢層別内訳を見ると、65歳以上の高齢者（1,070人）で、約7割を占めています。

今後も高齢化社会が進展するなかで、ドライバーとしては高齢者を保護する運転に心がけていく必要があります。そこで、高齢歩行者の特性と、運転上の注意点をまとめてみましたので参考にしてください。

高齢者・非高齢者別、状態別死者数の推移



警察庁統計データ「平成27年中の交通事故の発生状況」もとに作成

1. 高齢歩行者の特性

高齢歩行者が被害者となる事故の原因の一つとして、以下の体力や判断力の低下による行動特性があげられます。

■ 歩道から車道に飛び出す

高齢者は足下に注意していることから、車の接近を見落としている

■ 車を良く確認できていない

高齢者がこちらを見て車を確認したと思っても、車のスピードの判断を誤ったり、視力の低下により確認できていない

■ 青信号を渡り切れない

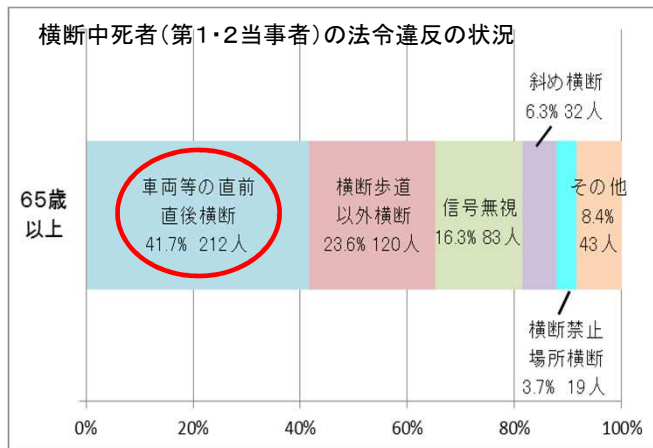
高齢歩行者は、青信号で渡り出しても渡り切れず、途中で赤信号に変わり事故に遭ってしまう



2. 高齢歩行者横断中死亡事故の原因

平成27年の高齢歩行中死者数（1,070人）のうち、5割が何らかの横断中の法令違反による死者数（509人）となっております。

内訳を見ると「車両等の直前直後横断（212人）」、「横断歩道以外横断（120人）」による死者数で約2/3を占めています。



警察庁統計データ「平成27年における交通死亡事故の特徴について」もとに作成

3. 事故を起こさないためには

どのようにしたら「高齢歩行者事故」を回避できるのでしょうか？

高齢者を事故から守るには、高齢者の行動特性を理解するとともに、以下のような点を注意して、危険予知能力を高めましょう。

- 夜間走行中は、ハイビームを積極的に利用して歩行者の発見に努める
- 高齢歩行者との側方間隔を十分にとるなど、高齢者に配慮して走行する
- 横断歩道や市街地交差点を走行する際は、速度を落とし歩行者の有無を確認する
- 高齢者横断中の衝突事故は、車両から見て「右から横断」が多い上図のように、対向車とスレ違った直後の歩行者の飛び出しに注意する



SOMPO ホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同